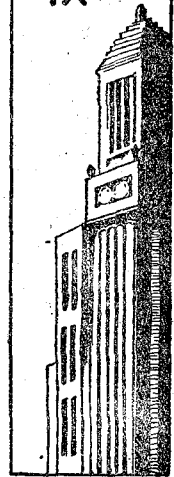


路政春秋



法規と常識とを無視

するものの交通禍

電車の衝突、自動車の轉覆、オートバイや自轉車の車輪禍、何ぞ夫れ多きやと嘆かざるを得ない。GO、STOPを無視し、徐行の標識を無視し、特に甚しきは自轉車や自動車が交通巡查の姿のありやなしやを視て其姿の見えざるを幸に歩行人の横斷するをも顧みずまつしぐらにSTOPの信號を尻目にかけて疾走するは日夕街頭に見る實相である。人に視られなければ交通道路を無視し、巡查が居なければ信號を無視して他人に傷害を蒙らしめても平然たる自轉車乗りや自動車の運動手は心悪き限である

路政春秋

がそれで日本精神がどうの、優越な民族性がどうのと言はれる義理ぢやあるまい。關取引の如き惡徳非道な行爲も同一の心構から生ずる國民の惡性に外ならない。此は國民精神總動員運動上に横はる一大問題であらう高遠な理想の必要は勿論だが自己慾一點張關取引の行動に對して是正の方法は如何に。

(徒歩浪人)

金喰つて通れぬ道の

始末?

新潟縣三條市では何の行違ひからか四千萬の經費を投じて人も馬も牛も通行を許されぬ道路を築造したとの事である、新聞の傳ふる所で見ると斯うである。

三條市では昨年十二月栗山市長退職の直前市道三路線の開鑿を議決したが、裏の内の一線たる三條驛北新保線は工費四千圓(内三條合同並平兩運送店で八百圓寄付)でこの程竣功したこの路線は第三小學校今の道路に接続し鐵路に沿うて三條驛貨物構内に乗り入れるものであるが、貨物の上屋ホームと貨物事務室の中央貨物積場を通らねば驛前に達しない處から鐵道側では貨物ホームのまん中へ道をつけられて人馬に通行されてはたまらぬとあつて驛構内と道路の接続地點へ通行を禁ず、との立札と共に鐵線を張り廻して交通を遮斷し今後は嚴重な柵を設けて永久遮斷の舉に出どといふ。

この道路は驛前が狹隘で貨物の運般に混亂を來すので貨物運搬の循環道路として開鑿された主なる理由であらうが運送店側の柵頭に對しても鐵道省は費用を運送店で負擔する監視人を鐵道側で附す條件をつけねば除柵まかりならぬとなり道は出來たが人は勿論車馬も通行ならぬといふ理代にある

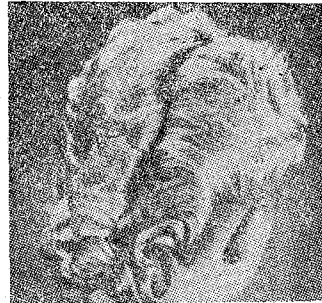
まじき天晴れな道路となつた譯である。假令除柵が許可となつたとしても運送店關係の人馬が通れるだけで一般の人々は通れぬといふ事になり市費多端の折柄畫餅に等しい道を四千圓もかけてつくるとはイヤヤ。

(大船津生)

興亞奉公日の街頭異風景

生活自肅の旗印高くかかげられて華美の服装、モダン、スタイルとしてのパーマネントが著しく排斥せらるることとなつた。風と共に駛る姿や光と共に歩む姿などおつては嘔吐を催さしめらるるが去りとして油こて／＼の丸鬘、根上り島田、つゞし島田、銀杏返などの如き(いいわたや桃割れなどの可愛は別)非衛生的な不經濟的な、日本髪を一部の男性の嗜好や氣持ちから奨励する譯でもあるまいが、パーマネントでも簡易な通俗的なものは日本髪よりは却つて衛生的で、經濟的で動作を活潑ならしむるものだと主張する婦人もあるのにパーマネ

ントなるが故に猫も杓子も同様に見るのは過ぎたるは及ばざるの甚しきものである。



でもがたと視察の眼を光からせながら、東

から西へと行進をつゞけた。さすがに三月前に上京した時とは非常な異風景であつた、有閑婦人のけば／＼しい服装、ダイヤ、新ダイヤ入の燦然たる指環は視られなかつた精勤の宣傳のききめかと思つた。所が三十餘歳と見らるゝ奥さん風のパーマネントが目前に現はれた、すると菅の小笠にわらんじばきの村夫子然たる老人が其婦人の前に立ち塞りパーマネントはよしませうといつた婦人は微笑しながら軽く會釋して立ち去つたが十米程前の方に文化人の群集するのが目に映つた。駆け付けて見ると三十二三歳とおぼしき會社員らしき男が三十二三歳のパーマネントに手をかけ打ちたゝきながらこんなものはよしてしまへと嘸鳴つた。その女性は泣き出した、巡査が來て其女を保護しながら自動車に乗せて去らしめ自分も立ち去つた、後に残つた暴力男の右左に二人の大學生らしき青年が立つて居つたが右なる一人が暴力男の右肩を軽く叩きながら「君」と呼んだ、暴力男は右に

振り向く途端に堅き握り拳が右頬にボカン。左へ顔をそらすと左側の學生の拳が左頬にボカン、文化人群はさま見あがれとワーンと聲をあげた、趣く所急なれば制するに由なきに至る。興亞奉公日の街頭の異風景都ならでは視られないと思はれた。

(百穴生)

奥多摩の道行詰る墳墓は何所

多摩川に東沿ひ京府下青梅町日向和田より奥多摩へと道は三田氷川小河内丹波山小菅へと水源地に入り大菩薩峠の北方に出づるのである。幽邃の地小河内の鶴の湯にわらじをぬいで休息し溪流のサラ／＼となる音河鹿の聲に耳を洗ひ山女魚の味に舌鼓を打つの快心は最早昔譚となつた。奥多摩秘境の道は行き詰つた。夫れにしても村民先祖累代の墳墓の行衛は何處？謂ふまでもなく東京市民飲用水の爲めに企てられた。小河内貯水池建設の蔭に湖底に没する小河内

路政春秋

丹波山、小菅三村六百四十九戸の住民は一昨年春から移轉を開始し既に三百三十戸は移轉を完了し、残りの三百十九戸も來春までには移轉することとなつた。墳墓の地を離れる村民にとつて墓地移轉は惱みの種であるが、東京市小河内貯水池建設事務所では豫算四萬三千五百圓を投じて氷川村から二里半離れた川野村に新しい墓地を作り、其竣工十年前からの死亡者五百體の白骨を掘り出して供養の上白木箱に納めて移轉させることとなつたと傳へらる。之れも時代の犠牲か。(氷川生)

崩壊道路の改修は地

元民の熱誠から

石川縣の靈峰白山登山路白峰布の瀨間通稱クツワ谷の崩壊によつて、自動車便を阻止され布の瀨まで約一萬メートルの徒歩を餘儀なくされつゝあつた縣路道も、その後地方民の熱誠により鋭意應急工事を施した結果、八月五日完成豫定を約一週間その工

を早めて二十八日一杯をもつて假棧道が完成し、二十九日からいよいよ白山下驛より一の瀨まで直通の自動車便が開通したので、登山期當初以來一般登山者にもつとも不便を與へてゐた路線も金名鐵道の登山期に備へた五臺のバスによつて、今後殺到する登山者の一大運搬が開始されることとなつた。斯くあつてこそ興亞奉公の實踐である。

神泉流盆景座談會の折

巴 藤

盆景會古園の月にありかばや
月を待つ古園の萩のそよきかな
すゝきまだ穂に出ぬ古園月今宵
白鬚の橋月まどかななる歩みかな

一五九